

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個々の役割を生きがいにつなげる支援をして行く。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員からの意見を出し合って作り上げたもので食堂の見やすい位置に理念を掲示し、常に理念を意識して実践できるよう努力している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議に家族や地域の人々に参加してもらいG・Hの生活を知ってもらえるよう努めている。また、町内会の会議に職員が参加してG・Hの生活を紹介している。	
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気候の良い日には出来るだけ町内まで散歩をして、すれ違う人には挨拶が出来る様心掛けています。不定期ではあるが、子供達が訪問してくれる。	G・Hの敷地の一部(芝生地帯)を近隣へ開放して、子供の遊び場や住民の憩いの場として使って頂く。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会への加入をして町内運動会やお祭りに参加している。またG・Hの入居者と地域の子供達と年一回のバーベキュー大会を開催し交流を深めている。	G・H玄関前に設置してある自動販売機を地域の方へも利用してもらったり、G・Hの敷地を地域行事にも使ってもらえよう自治会に提案している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会の会議に出席し、地域の高齢者に役立つ事など話し合いG・Hに自由に遊びに来て欲しい旨を伝えている。また、運営推進会議においても高齢者向けの講座を開催する方向で話が出ている。		高齢者向けの講座は地域包括支援センターが主催となるが、G・Hも講座の実現に向け協力して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットミーティングにて職員同士で意見を出し合い改善して行けるように努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の町内会長、地域包括支援センター職員、民生委員やご家族などに参加してもらい、報告や話し合いを行っている。開催する時期もホームの行事に合わせ行事の様子などを見ている。		運営推進会議にて外部評価の内容や評価を報告して、意見を伺いサービス向上に活かしている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のG・H協会の活動で行政との親睦会があり、出席して意見交換を行なっている。事故などの報告等を頻繁に行い、その際に相談等の連携が取れるよう努めている。		今後も必要に応じ市町村とも連携を取って行きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し、関係機関と話し合っているが、家族に必要と思われる方が存在しない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、全国G・H協会等の資料を参考に職員が知る機会を設けており、虐待防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際、書面を使い説明している。不明な点があれば聞き説明している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で職員が利用者から意見を聞いたり、又介護相談員が入り実際に利用者とは話し、後で介護相談員と職員で意見交換して運営に反映させている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付と一緒に個々の写真を添えた報告、又面会の時に様子を伝えている。 金銭管理については、明細書を作成して報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を法人内2箇所、外部2箇所を載せており実際に相談があればその都度対応している。又運営推進会議や面会の中で家族から意見を聞いたりしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングの際に意見を言えるような場を設けている。又個別に意見があるときは聞いている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じ今までも職員同士又管理者が協力して勤務の調整を行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員による支援を受けられるよう働きやすい場を提供し、変わる場合は新人がなれるまで見習いとしてダメージを防いでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で定期的に行なわれる合同研修に参加させたり、G・H内でのミーティングにおいて勉強会を行ったり、また外部研修にも参加出来るように勤務調整をしている。</p>	<p>管理者から職員に自主研修も勤めており、職員自ら「この研修に行かせて欲しい」といえるように、さまざまな研修の情報提供を行なっている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>G・Hの協会に入会し同業者と交流を図り、訪問等を通じサービスの改善や向上できるよう取り組みしている。G・H協会の講座等に可能な限り参加して、相互間の交流や意見交換をしている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員に悩みがある時は聞くようにしている。業務終了後等に声をかけ最近の様子など聞くようにしている。</p>	<p>管理者側から職員の悩みを聞く機会を設けストレスを軽減できる場を設けていきたい。具体的には、定期的に職員の面接を設けるなどして行きたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が個々の努力や勤務状況を把握し、各自が向上する為の情報を提供、自らの申し出による研修参加の勤務調整などしている。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接や入居直後には本人とのコミュニケーションを大切に、傾聴し不安を取り除くよう努めている。記録も細かく取るようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の際には家族から入居前の状況や要望などを聴くようにしてコミュニケーションを図っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の心配なこと、希望を聞き安心してご家族ともども生活が送れるよう支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心できるよう家族の協力を得ながら自宅での生活状況を把握し徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	リビング等で本人の昔話や、また職員が最近の話題を振ったりして楽しい会話を心掛けている。 本人より料理の工夫や畑での作物、年間祭りのこと等アドバイスを受けながら行なっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の参加できる行事も企画し、家族参加を呼びかけ本人と一緒に楽しんで頂いています。他にも半日程度の催しにも家族参加の声かけを行っています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の本人とご家族との関係をご家族から聞かされ、ご家族の大変だった事を理解し、距離をおくことで精神的の安定された家族が多い。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下生まれ故郷に里帰りされたり、生まれ故郷の近い方は毎月のように連れ出して下さるなど協力しながら支援している。		ケアハウスなど本人が以前生活していた場所への訪問なども心掛けるようにしたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士思いやりを持って生活をされているようで体調不良の時は、「どうかしましたか」等心配したり良くなると安心する等いろいろな場面で思いやる心が芽生えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了後の家族には近くに来たら気兼ねなく寄って下さい等の声かけや、話し相手のボランティアに入られる方もいる。また、入院されている方については時々お見舞いに行き家族と話しをしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で希望を聞いたり、またケアプラン作成時には必ず今後の生活希望を聞き盛り込むようにしている。内容を情報として家族へ伝えている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時に生活歴を聞いている。わからない事がある時はその都度聞くようにして、支援に役立てている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態によりその日の過ごし方を考慮し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意見や日頃の様子、家族の意見、必要な関係者(職員や主治医等)の話しや情報を反映した介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回はプランの見直しをしている。現状の変化があればプランの変更をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や結果、気づき等情報を共有し生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は多機能性を備えていないが、本人やご家族の状況により、要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内の自治会では運動会など利用者の参加に協力して頂いている。近隣の商店では利用者の買い物に利便を図ってもらっている。 ボランティアでは定期的に音楽(アコーディオン・ハーモニカ)がはいってます。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在必要としない。必要に応じ支援していきたい。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと必要に応じて、相談できるよう連携をとっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の理事長が認知症の専門医であり、適切な医療を受けている。又相談にも応じてくれている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>当事業所の理事長が認知症に詳しいドクターであり職員が相談したり利用者が診断や治療を受けられている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>何かの時には同法人の特養看護職に相談したり、地域包括支援センターの看護師にも相談することもある。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>協力病院や、入院された時は病院関係者と情報交換や相談したりしている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>法人の方針で重度化した場合について入居契約時に特養の申し込みをしていただいている。現在まで特養への移動はない。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>G・Hでの対応困難の利用者のについては主治医、ご家族とも話し合い出来る限りG・Hでの生活が一日でも長く送れるよう支援している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>現在まで住み替えの方がいない。</p>		<p>今後住み替えの必要な利用者に対し十分な相談に応じていきたい。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけや対応には常に注意し又記録等の保管場所を決めている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>常に好みの食べ物を聞いたり、やりたいことはないのか聞くようにしている。又、外食の企画は利用者の希望を尊重している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人一人のペースを大切に、食事の時間は大体決まっているが強制はしていない。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容、美容については希望に応じ、訪問、パーマをかける、又職員同伴で行っている。洋服あまりちぐはぐな時は支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事を作る事が好きな方は準備や調理に積極的に参加されている。片付けの好きな方、また自分の食べた物は自分で片づけをするなど一人ひとりの力を発揮できるよう支援している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>タバコが好きな方にはストレスが溜まらない程度に進めたり、寝前の梅酒など好みに合わせて楽しめるよう支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄一人ひとりを把握その人に添った介助をしている。ナースコール対応、時間で声掛け、立ち上がった時そっと付添って支援するなどしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴できるようにしている。遅い時間に入りたい等希望も盛り込み行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の体調や習慣に応じ休息できるようにしている。休憩時間についてはある程度本人の意思に任せている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力が発揮できるよう料理好き、裁縫、洗濯たたみ等楽しみながら役割が出来るよう支援している。またボランティアによる演奏を楽しんだり、法人内(他事業所)へ出向き演劇等も楽しんでいる。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で管理しているが、入居者の力に応じ買い物に出掛ける時にお金を渡し使ってもらっている。		出かける時は車だけではなく、バスや電車等の一般交通機関を使い、本人が実際に運賃を払えるような場面も計画して行きたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員付き添いで買い物に行ったり気候の良い日はなるべく散歩をするようにしている。不穩で外へ出掛ける方には一緒に出掛け落ち着くまで散歩している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出行事などを企画する際に入居者の意見を取り入れるようにしている。個別でも車で出かけられるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話を引き自由に家族と話されている方もいる。又年賀状や暑中見舞いを書く機会を作っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族やなじみの方の訪問には何時でもお茶やお菓子を提供し居心地よく過ごせるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの際に身体拘束となる行為の説明をして、職員全員が共通認識が持てるよう勤めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間など玄関の施錠は時間を決めて行っている。玄関の内側ドアには鈴をつけ外側のドアを開けたらメロディーが鳴るように工夫をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングには必ず職員が居られるようにしており、その利用者により帰宅要求が強い場合は常に所在確認をして、職員の話によりもう少し待ってもらうように対応している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や薬品類は決められた場所で保管しているが、鉛筆など日常的な物はその都度使用する時に職員が付添うようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	アクシデント、インシデントレポートに記入し今後の対策に活かしている。緊急時のマニュアルも作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成し緊急時に対応できるようにしているが、全ての職員が応急手当や、初期対応ができるよう千葉県防災普及公社にて救命講習を受講を始めている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定避難訓練を行っており、運営推進会議にて近隣住民にも協力してもらえようお願いしている。		避難訓練だけではなく、実際の消化方法の知識や実技等も交えた研修も行なって行きたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりうる事故について家族に説明し理解してもらえよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	週一回のバイタルチェックと月一回の体重測定を記入している。体調の変化があった時は比較できるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルに薬の説明書を保管している。効果や副作用がわかるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	意識的に乳製品をおやつに取り入れている。また、便秘がちな人には乳製品や繊維質を多く摂取できるようにしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後うがいや、入れ歯を洗うよう促し見守っているなど一人ひとりの状態や力に応じ支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜などの栄養バランスに気を配ったメニューを心がけている。一日の摂取カロリーにも注意している。水分の摂取量にも気を配り、特に便秘がちの人には多めに摂取してもらるようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを職員全員に配布している。また、感染症が流行する時期には申し送り簿などにも対応を書き、職員に伝えている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は毎日1回以上は食洗器を利用している。週一回は冷蔵庫の掃除を行い賞味期限の切れたものは処分している。まな板や包丁などは塩素系漂白剤にて消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	G・Hの玄関前庭はボランティアさんがお花を植え替え利用者、家族、近隣の皆様も楽しみにされている。裏庭にあった自動販売機を玄関前に移動して近隣や家族にも利用してもらえようしたり、散歩等の途中でも一休み出来るようにベンチも設置している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに季節の花を飾ったり掲示板には利用者の作品を飾ったり利用者の写真を飾るなどしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士ソファで話をしたり和室でTVを見たりリビングで過ごすなど思い思いに過ごされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に家族に説明し各自使い慣れ好みのものを活かし生活されている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	小まめに窓を開けるなどして換気に努めている。温度調節にも気を配り、冷暖房の使用も利用者の状況に応じている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、廊下やトイレ、浴室にも手すりがつけてあり安全に生活できている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレのわからない利用者の為に、目印になるものをつけたり、張り紙をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りには花壇があり利用者と花の手入れや水やりをしている。裏には家庭菜園があり野菜の収穫をしている。又散歩も出来る環境にあり楽しんでいる。		今後も利用者が家庭菜園で野菜の収穫を積極的に出来るように促して行きたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・法人には特養をはじめ様々な機能を備えており又、理事長が認知症に詳しい医師であり利用者、家族には安心していただけていると思います。
- ・外部評価の結果を真摯に受け止め改善すべき点については、出来ることから改善していきます。
- ・入居者も職員も一人一人が持っている良いところを大切にしていきたいと考えています。